

和歌山県立医科大学附属病院 リウマチ・膠原病科

当科の特徴

当科は、平成 27 年 10 月に新設された、和歌山県立医科大学附属病院で 8 番目の内科診療科です。関節リウマチ (RA)、全身性エリテマトーデス (SLE)、強皮症、多発性筋炎 / 皮膚筋炎、混合性結合組織病、血管炎症候群、シェーグレン症候群、抗リン脂質抗体症候群などの全身性自己免疫疾患、ベーチェット病、偽痛風、成人発症スティル病などの自己炎症性疾患、さらに脊椎関節炎、IgG4 関連疾患、リウマチ性多発筋痛症、再発性多発軟骨炎などの全身性リウマチ性疾患の診療を担当しています。

当科が担当する疾患では、全身の炎症を制御しその原因となっている免疫異常を調節することが重要であり、免疫学の

知識が必要となります。近年の抗リウマチ薬や抗 SLE 薬の進歩はめざましく、膠原病はきわめて専門性の高い疾患と考えられています。われわれは、自信を持ってステロイドや免疫抑制薬、生物学的製剤治療が行えるリウマチ・膠原病専門医の育成を目指しています。

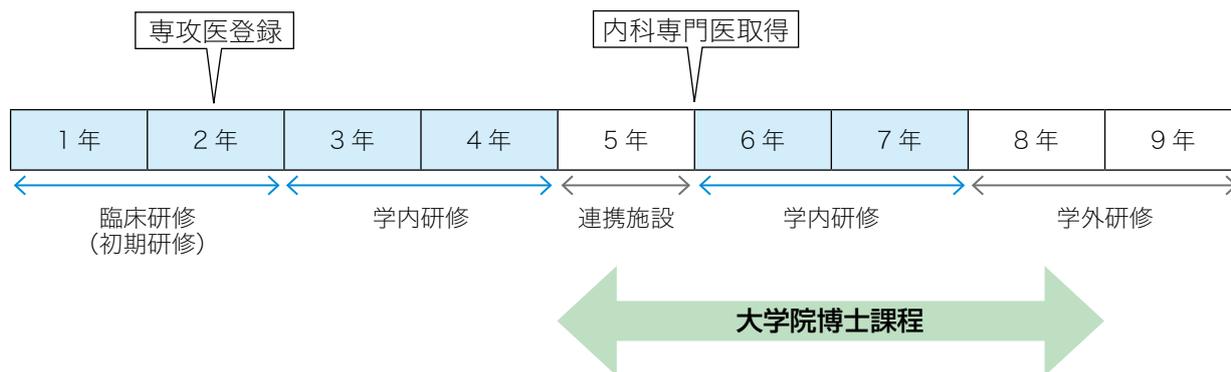
当科では、RA のバイオバンクを構築しており、これらの患者診療データおよび経時的な血清を用いて研究を推奨しています。



ローテーション例

一般枠コース

※ □ は学内研修

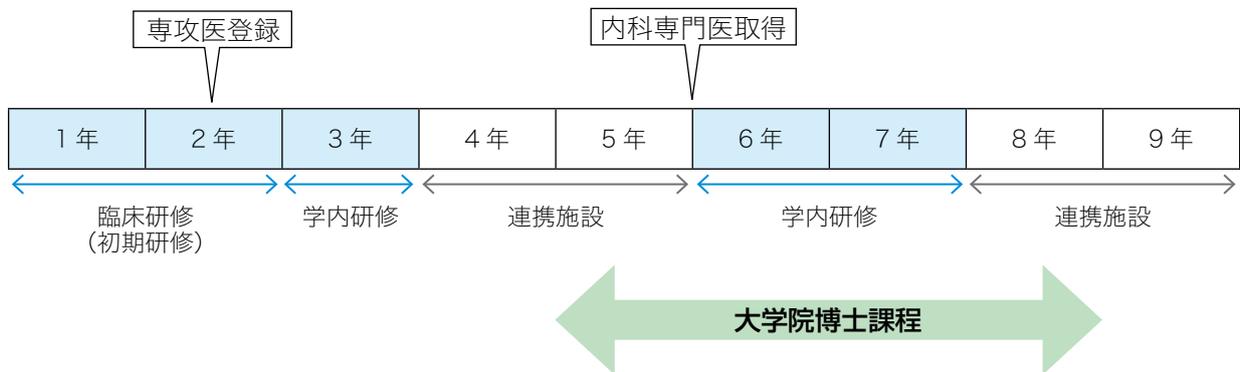


当科は全身性の疾患であるため、内科的知識を広く習得しておく必要があります。特に内科専門医試験に対して多くの症例を記載しておく必要があるため、学内で研修する 3-4 年目も、他の内科への一時的な研修も (希望があれば) 可能です。なお、大学院入学は必須ではありません。

ローテーション例

県民医療枠コース

※ □ は学内研修

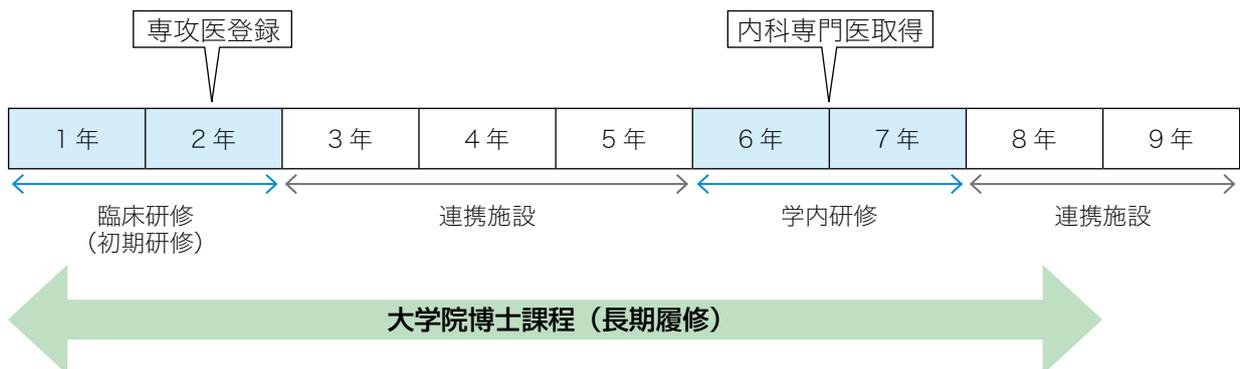


当科は全身性の疾患であるため、内科的知識を広く習得しておく必要があります。特に内科専門医試験に対して多くの症例を記載しておく必要があるため、学内で研修する3年目、6年目も、他の内科への一時的な研修も（希望があれば）可能です。また連携施設に出向する際はリウマチ教育施設を選択し、リウマチ専門医試験を遅滞なく受験できるよう配慮します。なお、大学院入学は必須ではありません。

ローテーション例

地域医療枠コース

※ □ は学内研修



科では教育施設との兼ね合いから、地域医療枠のリウマチ専門医取得は8年終了後になります。もし地域医療枠コースの方で当科を希望される場合には一度ご連絡ください。なお、大学院入学は必須ではありません。

研修目標

【関節リウマチ・膠原病の診断】

最新の診断あるいは分類基準に習熟し、スムーズに診断ができる

【関節リウマチ・膠原病に関わる検査の正確な解釈】

自己抗体検査を含め、診断・経過観察・治療効果判定のための検査を行い、その結果を的確に解釈できる

【関節リウマチ・膠原病の治療法の決定】

副腎皮質ステロイドや免疫調節・抑制薬、生物学的製剤の特徴を理解し、患者ごとに適切な治療薬を選択することができる

教授からのメッセージ



藤井 隆夫 教授

和歌山県立医科大学附属病院には現在8つの内科診療科があり、当科はその一つです。担当する疾患は、限定された臓器に発症する疾患ではなく全身性の症状をきたし、またその病態が炎症（良性疾患）であるという点が特徴です。したがって総合診療科のごとく、その診察においては全身を診る必要があります。皮膚病変や眼病変にも注意を払う必要があります。そしてその炎症の原因が感染症ではなく免疫異常と深く関連しているため、その診察には人の免疫機構を理解する必要があります。

残念なことに、和歌山県ではリウマチ・膠原病専門医の数が著しく少ないため入院診療も含めて膠原病内科的重症病態を診療・研修できる施設は県内では当科しかありません。われわれは平成27年10月以降診療を開始してから現在まで、

経験目標

当科ではリウマチ専門医取得までに以下の経験を積むことを修了条件としています。

- ・関節リウマチ 30例以上
- ・全身性エリテマトーデス 10例以上
- ・強皮症 5例以上
- ・多発性筋炎/皮膚筋炎 5例以上
- ・血管炎症候群 3例以上
- ・混合性結合組織病・シェーグレン症候群など
他の膠原病・リウマチ性疾患 15例以上
- ・不明熱 3例以上

関節リウマチ919例、SLE173例、強皮症221例、多発性筋炎/皮膚筋炎70例、血管炎症候群117例、シェーグレン症候群326例、混合性結合組織病41例など多くの膠原病患者を診療してきました。今後はリウマチ・膠原病、および免疫疾患診療に興味を持つ若い先生にぜひ加わって頂きたいと思っております。

また大学病院である以上、国内外へ新しい研究成果を発信することも重要です。われわれは関節リウマチの患者コホート（WakaURAコホート）を構築し、疾患活動性に紐付けされた血清を採取することで、その研究を進めています。特に膠原病では特異的な自己抗体が存在するため、それに関する研究を中心に進める予定です。

当科は歴史が浅いため、県内で真の関連病院とよべる施設がありません。また県内ではリウマチ教育施設が少なく研修できる学外施設は限られております。しかし内科の1診療科として内科専門医およびリウマチ専門医を取得することが可能であり、その上でみなさんの要望にできる限り答えられるよう努力いたします。リウマチ・膠原病診療、自己免疫疾患の診療や研究に興味のある方は、是非一度藤井まで相談ください。



関節超音波



キャピラロスコピー

当科で取得可能な専門医と指導体制

研修施設	リウマチ専門医
和歌山ろうさい病院	リウマチ教育施設
公立那賀病院	リウマチ教育施設
済生会和歌山病院	リウマチ教育施設
海南医療センター	リウマチ教育施設
日本赤十字社和歌山医療センター	リウマチ教育施設

大血管炎

中枢神経傷害

皮膚・粘膜傷害

末梢循環不全

破壊性関節炎

血液異常

壊死性血管炎

消化管病変

間質性肺炎

糸球体腎炎

リウマチ・膠原病は全身性疾患